

Title	ディスカウンター業態の存続基盤
Sub Title	
Author	河原成昭(Kawahara, Shigeaki) 片岡一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第260号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0260">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0260</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	河原成昭	主査	片岡一郎
	(株式会社 イトーヨーカ堂)	副査	嶋口充輝
所属ゼミナール	嶋口充輝 研		青井倫一

## ディスカウンター業態の存続基盤

当論文は、我国小売市場構造における“ディスカウンター”領域の現状を分析し、併せて“ディスカウンター”が、業態として今後存続基盤を確立する為の戦略的方向を探ることを目的とした研究である。

一部専門商品及び一部地域に限定されたディスカウンターは既に存在している。しかしながら市場規模から考察すると価格差別化を軸としたディスカウンター領域は、“真空地帯”になっていることが指摘される。この理由としては、メーカー主導型流通チャンネルが主流を成している流通構造の基において、彼らが構築した流通系列化による市場支配体制の“弊害”が挙げられる。すなわち、彼らの商品安定供給阻害行動が、消費者ニーズに適應する商品構成の定式化を妨げ、結果としては、他業態に比しての差別的優位性が確立されていないのである。

このような分析視点から、存続基盤確立のために解消すべき基本課題とは、“消費者が購買決定要因として価格差別化を重視する商品を選択＝品揃えし、これを継続的に実現するシステム”を構築することである。したがって、対象商品・顧客層を明確化したうえで、これら商品の安定供給を可能とする仕入ルートの確保が必要不可欠となる。

結論としては、規格化商品カテゴリーを対象とした ①価格破壊型 ②過剰供給調整型、低社会リスク商品カテゴリーを対象とした ③本質機能追求型の各々戦略パターンを遂行することが、存続基盤確立に際しては最も有用であると示唆された。